

環境報告書

2015



アイシン化工株式会社

参考にしたガイドライン
環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」
「環境報告書の記載事項等の手引き」(第3版)
報告書の対象範囲
対象期間：2014年4月1日～2015年3月31日
一部、対象期間以前、もしくは以後の活動内容も含まれます。

会社プロフィール

設立：1952年2月12日
本社所在地：〒470-0492 愛知県豊田市藤岡飯野町大川ヶ原1141番地1
資本金：21億18百万円
売上高：612億95百万円(連結)、486億82百万円(単体)
経常利益：45億円(連結)、34億円(単体)
従業員数：1,234名(男性：1,074名、女性：160名)
事業内容：自動車用化成品、摩擦材(駆動・伝導部品、ブレーキパッド)、樹脂部品の開発・生産・販売
営業所：東京営業所、大阪営業所、九州連絡所
連結対象会社：(国内)
・エイ・シー工業株式会社(愛知県豊田市)
(海外)
・AISIN CHEMICAL INDIANA,LLC(米国)
・AISIN CHEMICAL (THAILAND)CO.,LTD.(タイ)
・唐山愛信化工有限公司(中国)
ホームページ：http://www.aisin-chem.co.jp

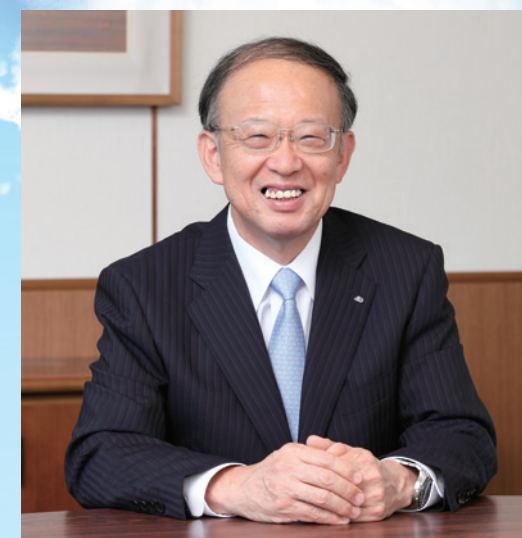
(2015年3月末時点)

「ブランド力のあるグローバル企業」をめざして

2014年度は「2015年ビジョン実現」の基盤固めのために、日本、北米、タイ、中国の生産体制拡充、国内での開発力・モノづくり力の強化に取り組んできました。その結果、売上高は過去最高を達成することができましたが、ビジョン実現に向けた継続的な取り組みとグローバルで戦える企業基盤の更なる強化が必要と強く認識しました。

自動車産業界では部品サプライヤーの企業再編やグローバルでの競争熾烈化など、私たちを取り巻く環境はますます厳しさを増していくことが予想されます。このような中で私たちは、持続的成長に向けたグローバルでの事業体制の強化を図るとともに、将来の競争力の確保に向けた新製品・新工法開発に取り組んで参ります。

アイシン化工グループ全員の知恵と力を合わせて、「ブランド力のあるグローバル企業」を目指していきます。

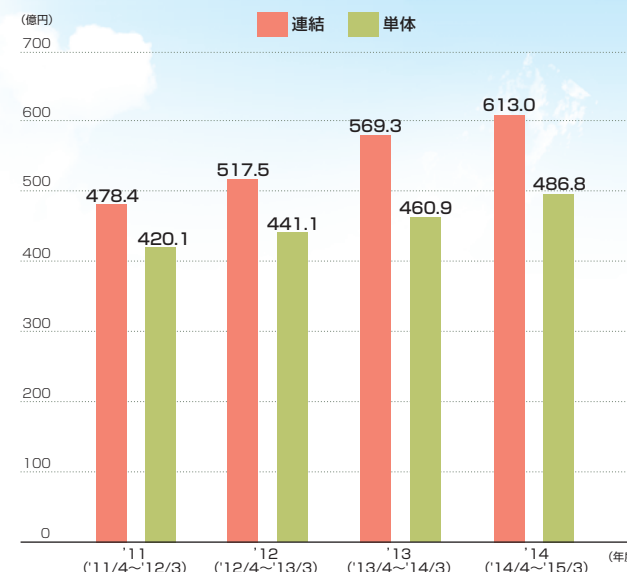


取締役社長

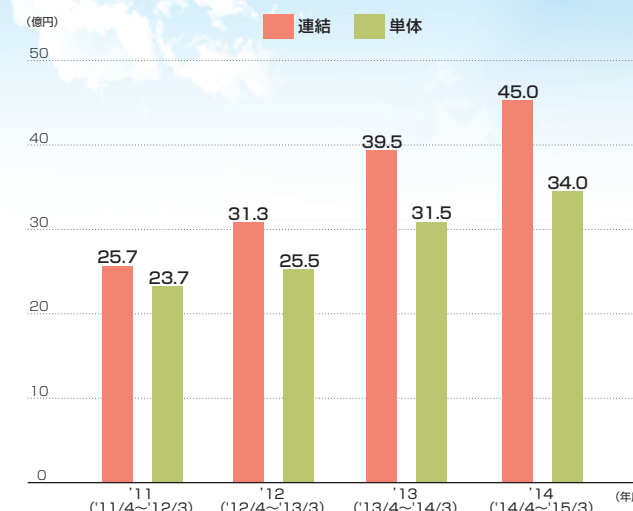
清水寛一

業績・売上高構成

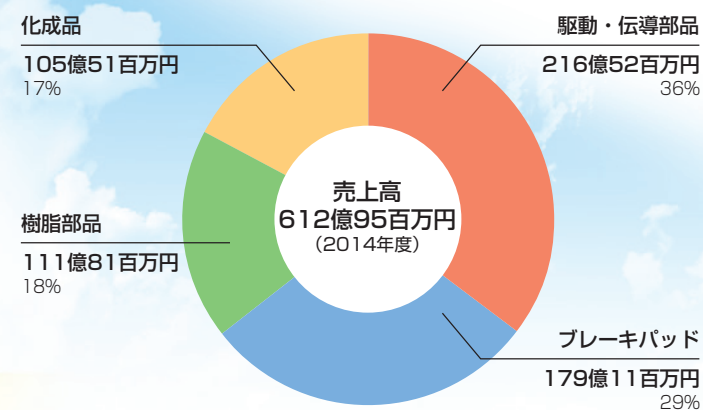
売上高(連結・単体)



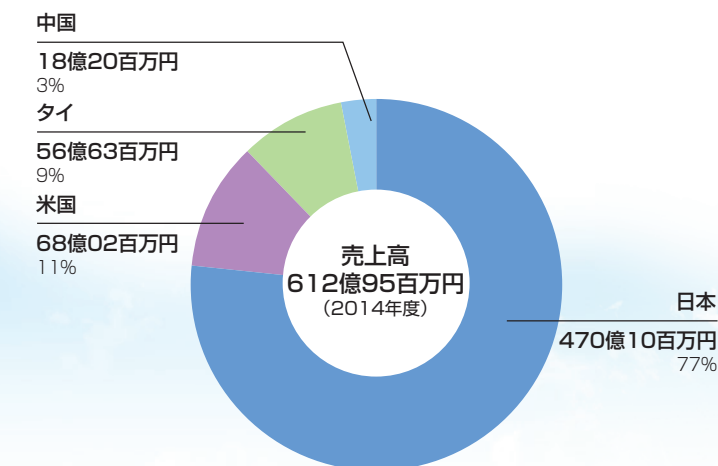
経常利益(連結・単体)



売上高構成比(連結)



所在地域別の概況(連結)



連結対象会社の取り組み

エイ・シー工業(日本)

環境マネジメントシステムの強化と改正フロン法への対応



エイ・シー工業
鈴木 宏実 社長

エイ・シー工業株式会社

所在地：愛知県 豊田市

事業内容：自動車用樹脂部品の生産

ISO9001認証取得

'14年7月、品質管理システムの維持・継続を確実なものとするためISO9001(品質)の審査を受け、審査機関(国際システム審査)から認定されました。従来から、顧客(ブレーキシステムメーカー)による「保安部品製造監査」、あるいは「工程点検」等を受審しており、既存の品質管理システムの追認という結果となりましたが、顧客に信頼されるための新たな出発点となりました。

アイシン連結環境監査の受審

'15年2月、アイシン化工の連結環境監査員による環境アセスメントを受審しました。その中で、ISO9001を取得する際に行ったISO14001とのマニュアル統合などのシステム変更が適切に実施されていると認められました。

改正フロン法社内説明会の開催

'15年4月、フロン法改正への対応を確実にするために、アイシン化工の担当者を招き、社内説明会を開催しました。法規制の対象となる設備をリストアップし、フロンの漏えい点検を実施しています。



ISO14001定期審査の受審

ACIN (アメリカ)

湿式摩擦材、制振材の事業拡大を推進



ACIN
石上 正幸 社長

Aisin Chemical Indiana, LLC (略称：ACIN)

所在地：アメリカ インディアナ州

事業内容：塗布型制振材、湿式セグメントディスクの生産

湿式摩擦材一貫生産化

北米での競争力強化をねらいに進めてきた一貫生産化で、含浸工程を'14年10月から本格生産開始し、抄紙工程を'14年8月に設置、10月から試運転を開始し、'15年度第2四半期には、生産開始できるよう進めています。

制振材事業拡大

これまで日産スマーナ工場向けに納入していた塗布型制振材をキャントン工場向けにも受注し、'15年4月より販売を開始しました。今後も、制振材の事業拡大を推進していきます。

フォークリフトの電動化推進

LPガスを燃料としていたフォークリフトを更新の時期に合わせて電動化を推進しています。これによりCO₂の削減、燃料コストの削減に取り組んでいます。昨年は、5台中4台のフォークリフトを電動フォークリフトへ切り替えました。



完成した新工場

TAC (中国)

新工場への移設と新環境法規の対応



TAC
羽場 潤司 総経理

唐山愛信化工有限公司 (略称：TAC)

所在地：中国 河北省

事業内容：ディスクブレーキパッド、湿式セグメントディスク、リザーバタンクの生産

リザーバ及び湿式摩擦材の新工場への移設

新工場へリザーバ、湿式摩擦材生産工程を移設します。リザーバは'15年7月から生産を開始し、湿式摩擦材は'16年2月から生産を開始する予定です。

現在、環境影響評価の手続を実施中です。

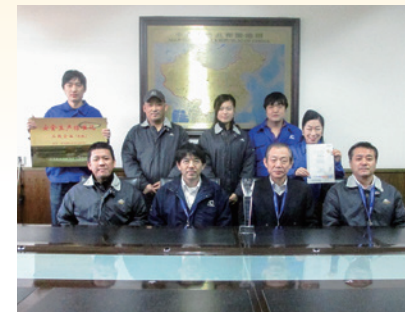
ブレーキパッド増産体制整備

新規受注に対応するため、ブレーキパッド生産ラインを増設し、'15年11月から量産を開始する予定です。

現在、試生産申請手続きを実施中です。

新環境法規の施行対応

'15年1月1日より新しい環境保護法規が施行され、より一層厳しくなった法律を遵守すべく社内教育を強化するとともに、唐山市環境専門家の審査を受けるため、緊急時応急処置案を再整備中です。



TACスタッフ(ISO14001認証取得)

ACT (タイ)

化成品の生産開始、ブレーキパッド新ライン稼働開始



ACT
香月 憲彦 社長

Aisin Chemical(Thailand)CO.,LTD. (略称：ACT)

所在地：タイ ラヨーン県

事業内容：ディスクブレーキパッド、ボデーシーラーの生産

TMT(トヨタ)、NMT(日産)向け化成品の本格納入開始

'14年7月からTMTサムロン工場、NMT、9月からはTMTゲートウェイ工場向けに化成品の本格納入を開始しました。今後も、お客様からの信頼を得て行けるよう、関連部署協業で改善活動に取り組んでいきます。

ブレーキパッド新工場・新ライン稼働開始

'14年夏よりブレーキパッド第2工場、'15年2月より新IMV立上げに対応するための第3ラインが稼働を開始しています。更に'15年秋より第4ラインの立上げを進めて行きます。

環境マネジメントシステムの推進

ACTでは'14年に化成品工場でもISO14001の認証を取得しています。'15年も化成品やブレーキパッド工場で、省エネや廃棄物低減を重点に環境マネジメントシステムの実践をしていきます。

TMT … トヨタ・モーター・タイランド
NMT … タイ日産自動車会社
IMV … 新興国市場をターゲットにしたトヨタ自動車の世界戦略車



ブレーキパッド第2工場竣工式

環境方針

当社は、企業活動のすべてにおいてクリーンな環境との調和を図り、豊かで美しい自然を子供たちに残すために、知恵と情熱を結集し、全社一丸となってグローバルな環境保全活動を実行していきます。

1.

当社は自動車に使われている様々な製品の開発・生産・販売において、
・省資源、省エネルギー、排出物削減などの環境保全
・開発段階から環境に配慮した製品の設計及び生産
・環境負荷の少ない材料・部品の調達、及び物流の効率化
に努め、社会に貢献します。

2.

環境保全のためのマネジメントシステムを構築するとともに、本方針に基づく環境目的・目標を定め、計画的な実践と見直しにより、継続的な改善に努めます。

3.

環境に関する法規制及び協定等を順守するとともに、自主基準を整備し、汚染の予防活動を行います。

4.

連結子会社の環境マネジメントシステムを支援し、グローバルな環境保全活動を推進します。

5.

周辺の環境保全を確かなものにするため、地域社会とのコミュニケーションを大切にします。

6.

環境方針を文書化し、広報活動を行うことにより、全従業員への周知徹底と意識向上を図り、実行していきます。

環境方針は、文書管理システム及びポスター等により、当社で働くすべての人に周知するとともに、一般の人が入手可能にします。

製品紹介

主要取り扱い製品 Main Products

アイシン化工では、自動車に使われている様々な部品を開発・製造しています
Aisin Chemical is developing and manufacturing parts and materials for automobile.

摩擦材

Friction Materials



ロックアップクラッチ
Lock Up Clutch



乾式クラッチフェーシング
Clutch Facing



ハイブリッドトルクリミッター用
乾式摩擦材
Dry Friction Material for Hybrid
Vehicles' Torque Limiter



湿式セグメントディスク
Segment Type Wet Friction Disk



フランジプレート / セパレータ
Flange Plate / Separator



ディスクブレーキパッド
Disk Brake Pad

樹脂部品

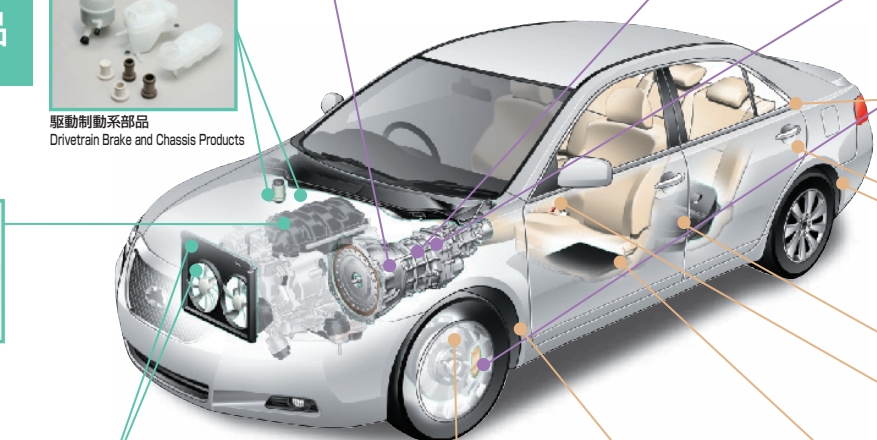
Plastic Parts



駆動系制動系部品
Drivetrain Brake and Chassis Products



インテークマニホールド
Plastic Intake Manifold



構造用接着剤
Structural Adhesive



速乾水性高防錆塗料
Quick-dry Waterborne Anti-corrosion Paint

化成品

Chemical Products



テープ
Tape



フューエルタンク水性塗料
Waterborne Paint for Fuel Tank



クーリングファン
Cooling Fan



ブレーキローター用水性防錆塗料
Waterborne Anti-corrosion Paint for Rotor



塩ビフリーアンダーコート
PVC-free Underbody Coating



塗布型制振材
Damping Coat



ボデーシーラー
Body Sealer

環境に配慮した製品の研究・開発

環境配慮型新製品

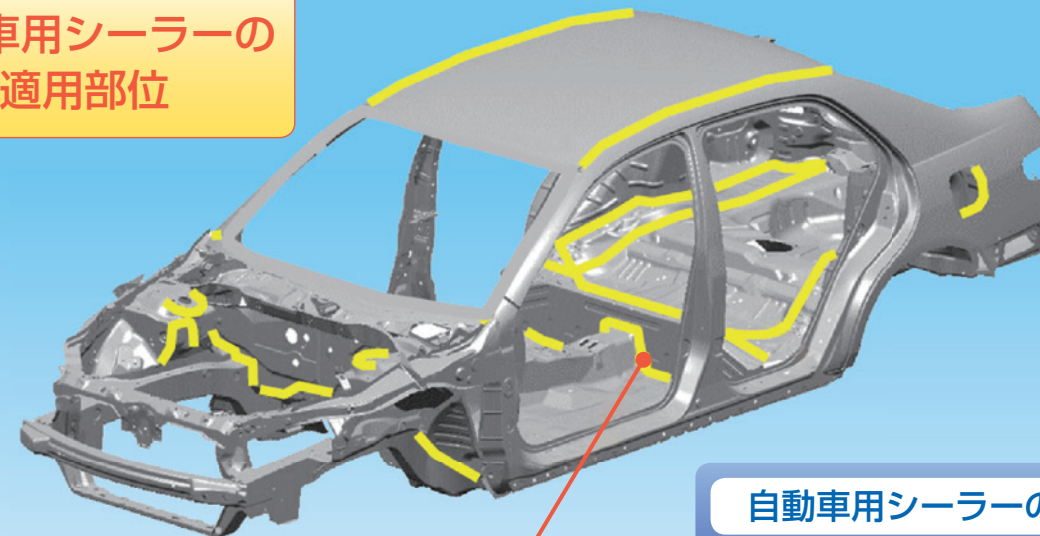
自動車用低VOCシーラー

シックハウス症候群(化学物質過敏症)を引き起こすVOC成分(揮発性有機化合物)を従来品から大幅に低減



自動車用シーラー

自動車用シーラーの適用部位



解決手段

- ①VOCが発生する原材料から発生しない原材料へ置換
- ②VOC成分トラップ技術を併用

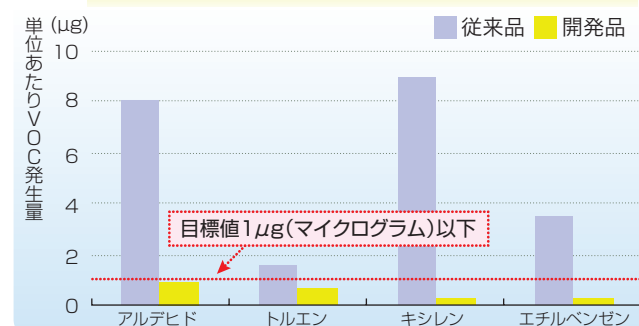
自動車用シーラーの機能

ボディ鋼板の端部や合せ目に施工され、空気・水の浸入や、サビを防ぎます。

開発品の特徴

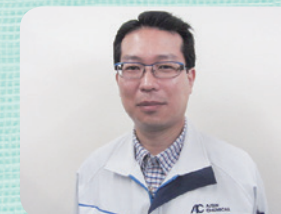
近年は「シックカー」という言葉があるくらいクルマも住まいと同様、快適な居住空間となっていかなければなりません。
開発品はシックカーの原因となるVOCの発生量を大幅に低減し、「安全快適なクルマ」づくりに貢献するものです。

VOC低減効果



開発担当者のコメント

車両の機能としては必要とされるシーラーですが、普段は目に付きにくい場所に使用されている為、ユーザーにはあまり知られていない製品です。今回の開発で付与した機能は目には見えませんが車室内環境を向上させる重要な技術です。
今後も、見えなくとも顧客に必要とされる機能を持たせた高機能製品を開発していきます。



化成品技術部
大西さん

アイシン化工の環境への取り組み

2014年度 環境保全活動計画の達成状況

2014年度環境保全活動計画の目標と結果は、以下の通りです。

■環境保全への取り組み

取り組み事項	2014年度環境目標	活動内容・結果	評価
CO ₂ 排出量の低減	■既存設備・ラインの省エネ改善 ■新工法開発の推進による省エネ	■省エネ機器の導入(GHP空調機など) ■プレーキパッド金型清掃のショットブラスト化	○
	<原単位> 62.1t-CO ₂ /億円以下	<原単位> 58.8t-CO ₂ /億円	○
廃棄物の低減	■工程・設備の安定運転 ■産廃の有価物化(拡大)検討	■工程改善、設備管理の徹底 ■廃プラ樹脂屑の再資源化(有価物化)	○
	<原単位> 5.31t/億円以下	<原単位> 4.94t/億円	○
環境負荷物質 排出量の低減	■見込み量との乖離を監視し、是正 ■抜本的な見直しの検討(資材・設備)	■資材購入量の把握、データ監視の継続 ■プレーキパッド代替塗料の検討・評価	○
	<原単位> VOC排出量 0.50 t/億円以下	<原単位> VOC排出量 0.26 t/億円	○
物流の効率化	■輸送工程の合理化 ■梱包・包装資材の低減	■荷量算出システムの構築 ■荷姿変更(ビニールサイズ適正化など)	○
	輸送物流のCO ₂ 排出量の低減 <排出量> 44.25kg-CO ₂ /百万円以下	輸送物流のCO ₂ 排出量の低減 <排出量> 43.33kg-CO ₂ /百万円	○
低炭素・循環型社会を志向した製品の設計・開発	■環境配慮型製品の設計・開発 (LCA評価方法の検討開始)	■燃費改善に資する自動車部品の設計・開発 ■生産時に不良の発生しにくい設計の実施	○

■環境マネジメントの取り組み

取り組み事項	2014年度環境目標	活動内容・結果	評価
環境マネジメントシステムの継続的な改善	■ISO14001定期審査 ■ISO14001内部環境監査	■定期審査 8月27日～8月28日受審 ■内部環境監査 6月～7月実施	○
グローバル連結 マネジメントの強化	■海外拠点を含めた環境データの把握 ■AC連結での活動	■海外拠点を含めた実績管理(A-GLOBE) ■海外拠点の目標値設定準備	○
サプライヤーと連携した 環境活動の推進	■「グリーン調達ガイドライン」の展開と 取組み支援	■仕入先訪問点検(昨年までの点検結果より、 重点指導仕入先を選定し実施)	○

■環境法順守の取り組み

取り組み事項	2014年度環境目標	活動内容・結果	評価
環境に関する法律・協定・ 自主基準の順守と汚染の 予防	■改善勧告件数 0件 ■住民苦情件数 0件	■改善勧告件数 0件 ■住民苦情件数 0件 ■全社緊急対応訓練の実施	○

■地域社会への取り組み

取り組み事項	2014年度環境目標	活動内容・結果	評価
地域社会への 環境情報の公開	■地域環境情報の把握	■豊田市「環境の保全を推進する協定協議会」 協定事業者間の環境取組み、環境情報の発信	○
	■地域との交流と懇談	■地域懇談会 8月23日に飯野公民館にて開催	
社会貢献活動の実施	■環境保護活動の実施	■アイシン環境学習プログラム(出前講座)を 飯野小学校にて開催	○
	■ボランティア活動の実施	■全従業員で取り組むスマクル活動の実施	

■従業員への取り組み

取り組み事項	2014年度環境目標	活動内容・結果	評価
従業員への環境方針の周知 徹底、環境意識の向上	■全従業員への周知 ■環境月間行事 ■構内工事業者への周知	■環境報告書の社内掲示による周知 ■緑のカーテンプロジェクト(ゴーヤ栽培) ■外来工事業者安全大会(年3回)	○

<評価基準> ○:達成 △:達成率70%以上 ×:達成率70%未満
原単位…効率性を表す値。総量を売上高で除した数値。

環境マネジメントシステムの継続的な改善

ISO14001外部審査の受審

2014年8月、本社工場にてISO14001定期審査を受審しました。受審後に審査結果が伝えられ、改善指摘は0件との判断を頂きました。更なる向上のための指摘「改善の機会」について、それぞれ改善計画を定め取り組んでおります。



ISO14001外部審査

内部環境監査の実施

2014年度の内部環境監査では、合わせて44件の要望・提案事項が挙がりました。今回は監査リーダーの育成に重点を置き、より多くの監査メンバーが経験を積めるように監査方法を工夫して実施しました。



内部環境監査

グローバル連結マネジメントの強化

アイシン化工グループ全ての連結対象会社がISO14001を認証取得しています。また、グループ全体での環境マネジメントレベルの向上を図るため、連結対象会社の環境アセスメントを実施しています。

会社名	所在地	認証取得日
アイシン化工(株)	愛知県豊田市	2001年12月14日
エイ・シー工業(株)	愛知県豊田市	2003年12月20日
AISIN CHEMICAL INDIANA,LLC	米国	2008年 7月21日
AISIN CHEMICAL (THAILAND)CO.,LTD.	タイ	2006年12月29日
唐山愛信化工有限公司	中国	2013年12月27日

ISO14001 認証取得状況



TAC(中国)の環境アセスメントを実施

サプライヤーと連携した環境活動の推進



調達部 部品G
稲田さん

お取引先様と一体となった環境活動を推進していくため、「アイシングループグリーン調達ガイドライン」を発行し、運用しています。

取引先様の環境マネジメントシステムの構築の支援を目的に、環境管理レベルアップ活動を実施しています。チェックシートを配布して、サプライヤーの自主点検を呼びかけるとともに、必要に応じて訪問点検・指導も実施しています。

2014年度は、昨年までの点検結果により重点仕入先を選定し、法令順守や環境汚染の予防について点検・指導を行いました。



仕入先訪問点検

アイシン化工の環境への取り組み

CO₂排出量低減への取り組み

省エネルギー設備機器への積極的な転換を行い、設備の小型化や工程の短縮・連携化によるエネルギー使用量の削減に努めています。

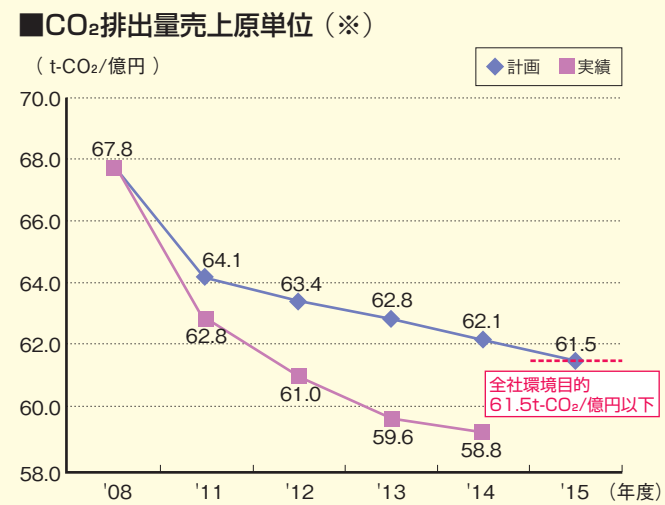
当社では、'08年を基準年として'11年から'15年までの5ヵ年計画を策定しています。売上原単位による目標設定を行い、生産稼動に応じたエネルギー使用の削減を中長期的な視点で取り組んでいます。

活動面では、LED照明エリアの拡大、インバータ式コンプレッサーやGHP空調機など省エネ機器の導入を進め、電力使用量の低減に取り組みました。

(※)売上原単位：CO₂排出量を売上高で除した値

(※)電力のCO₂換算係数は
0.453(t-CO₂/千KWH)に固定してCO₂排出量を算出。

地球温暖化を防止するには省エネルギー活動によるCO₂排出低減が必要と考え、生産ラインの改善や事務所内での節電、温度調節など全社一丸となって取り組んでいます。



廃棄物低減への取り組み

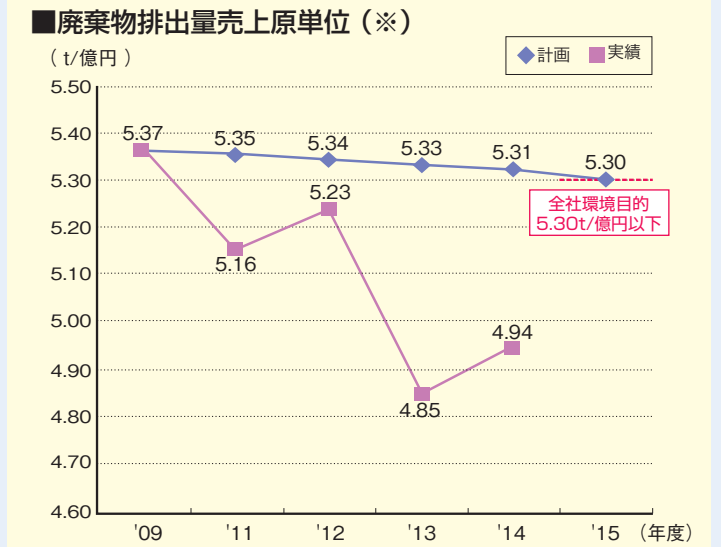
限りある資源を有効活用するため、工程改善や設備管理の徹底、不良低減に取り組むことで廃棄物の低減に努めています。

当社では、'09年を基準年として'11年から'15年までの5ヵ年計画を策定しています。売上原単位による目標設定を行い、生産稼動に応じた廃棄物排出量の削減を中長期的な視点で取り組んでいます。

活動面では、廃プラ樹脂屑の再資源化(有価物化)が完了し、先を見据えた新規テーマに取り組んでいます。また、各部門の環境保全責任者が排出量を定量的に把握し、フォローできる体制を構築しています。

(※)売上原単位：産業廃棄物の排出量を売上高で除した値

循環型社会を構築するために発生抑制・再使用・再生利用の3Rを基本として、不良低減や中間処理後のリサイクル活用に配慮した取り組みを進めています。



取り組み事例

省エネ機器の導入によるエネルギー使用量の低減



第2生産技術部 施設・保全G
エネルギー管理者 浦崎さん

'14年度は、蛍光灯からLED照明への切り替えに取り組み、昨年からエリアを拡大して、「工場屋外灯の照明機器」のLED化を進めました。

また、モーターの回転数を増減して負荷制御する「インバータ式コンプレッサー」や節電効果のある「GHP空調機」など、エネルギー効率の良い省エネ機器の導入を進めました。



LED照明(工場屋外灯)

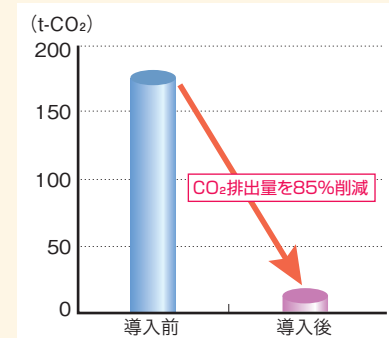


インバータ式コンプレッサー



GHP空調機

■省エネ機器の導入によるCO₂削減効果(年間)



ブレーキパッド金型洗浄のショットブラスト化



第1生産技術部 パッドG
古橋さん

ブレーキパッド工程で使用する金型を洗浄するために、アルカリ性の湯温槽に金型を長時間浸漬させていました。管理リスクの低減やエネルギー使用量、廃液処理費用の削減が見込めるとして、金属玉を用いたショットブラスト洗浄装置を導入しました。この活動により、エネルギー消費量を従来から59%削減することができています。



ショットブラスト洗浄装置

取り組み事例

荷姿変更によるドラム積載重量の削減(アルカリ廃液)

アルカリ廃液について、従来はドラムに入れ平ボディ車に積載して運搬していました。ドラムの確保も課題となりつつある中、大型ローリー車への荷姿変更を検討しました。処分業者にとっても作業工数が短縮できることから、処分単価を安く抑えることができました。また、この活動により年間10t(500本分)のドラム積載重量の削減効果をあげることができました。



大型ローリー車で運搬

廃プラ樹脂屑の再資源化(有価物化)



樹脂部品製造部 樹脂部品製造課
古澤さん

使用している樹脂はガラス繊維が多く、非常に固い材質であるため破砕が難しく、産業廃棄物として処分されていました。ガラス繊維が含まれるものの、リサイクル可能な材質であることから、関係部署と協力してリサイクル業者を調査しました。買取業者から提示された買取基準を満たすため、カンバン表示や教育を徹底しました。この活動で、年間約22tもの廃棄物削減(有価化)が期待されています。



廃プラ樹脂屑(有価物)

リン酸廃液を肥料原料として有効活用(肥料メーカーに有償売却)



安全環境部 安全環境G
特別管理産業廃棄物管理責任者 村上さん

公害防止管理者資格の勉強をしていた時、下水汚泥をリン肥料として回収する水処理技術を参考に、酸洗工程で発生するリン酸廃液を有効利用できないかと考えました。リン酸製造元の肥料メーカーに相談したところ、受入条件を満たせば特別な処理をせずに有価物(肥料原料)として買取して頂けることが分かりました。現在は契約や届出の手続きを行い、運用に向けた最終準備を行っています。



肥料サンプル
(リン酸廃液を肥料原料として有効活用)

環境負荷物質排出量低減への取り組み

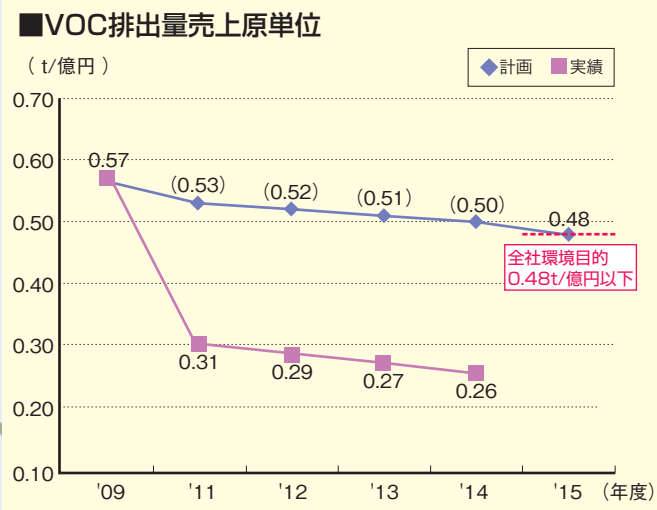
当社は、'09年を基準として'11年から'15年までの5カ年計画を策定しています。売上原単位による目標設定を行い、生産稼働に応じた環境負荷物質排出量の削減を中長期的な視点で取り組んでいます。

活動面では、プレーキパッドの代替塗料の検討・評価、資材購入量と見込み量の比較監視に取り組ましました。



VOC・・・揮発性有機化合物

取り扱う資材に含まれる化学物質の環境負荷について、事前に調査・検討して使用しています。
化学物質の恩恵を受けるとともに、環境負荷物質を最小限に減らす活動に取り組んでいます。



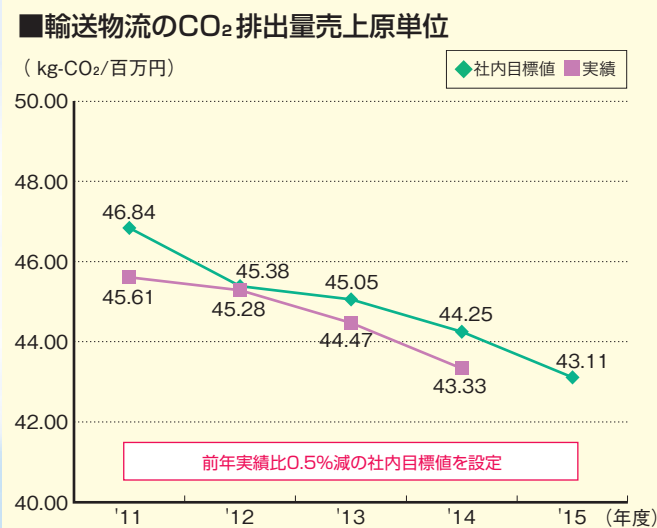
物流の効率化への取り組み

地球温暖化防止と資源の有効活用の観点から、トラック輸送等で排出されるCO₂排出量の低減、製品梱包における資材使用量の低減を進めています。

当社は、物流でのCO₂排出量と梱包資材使用量に関して売上原単位による社内目標値（自主目標値）を年度毎に設定して取り組んでいます。

活動面では、荷量算出システムの構築による物流の合理化、荷姿変更（ビニール袋のサイズ適正化、木パレット削減など）による梱包・包装材使用量の低減に取り組ましました。

経路・車格の見直しによる輸送に伴うCO₂排出量、梱包・包装資材使用量の低減に取り組んでいます。



環境月間行事 ～緑のカーテンプロジェクト～

豊田市協定協議会と協同して、6月の環境月間に工場外壁で緑のカーテン作りに取り組みました。また、アサガオやゴーヤの苗を従業員に配布して、家庭でグリーンカーテン作りに取り組んでもらい、後日、取り組みを募集して表彰を行いました。参加者からは、「エアコンを使わずに過ごせた」、「自分で育てたゴーヤは美味しかった」といった評価を頂きました。



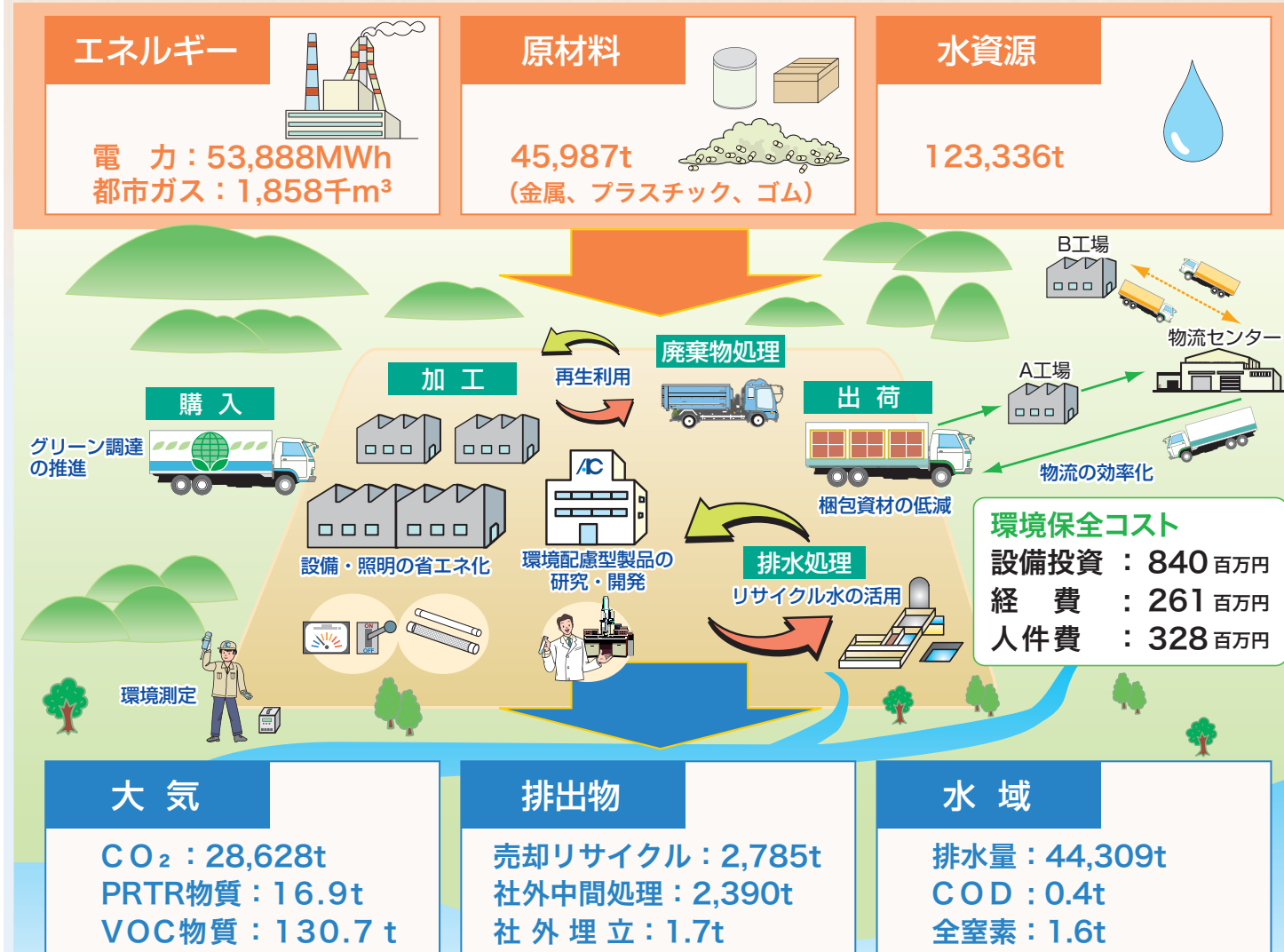
緑のカーテン(工場外壁)



家庭での取り組みを表彰

環境負荷の全体像

事業活動において、原材料の調達から生産、輸送、使用、廃棄に至るまで、環境負荷を定量的に計測・把握し、その削減に取り組むことが重要であると考えています。

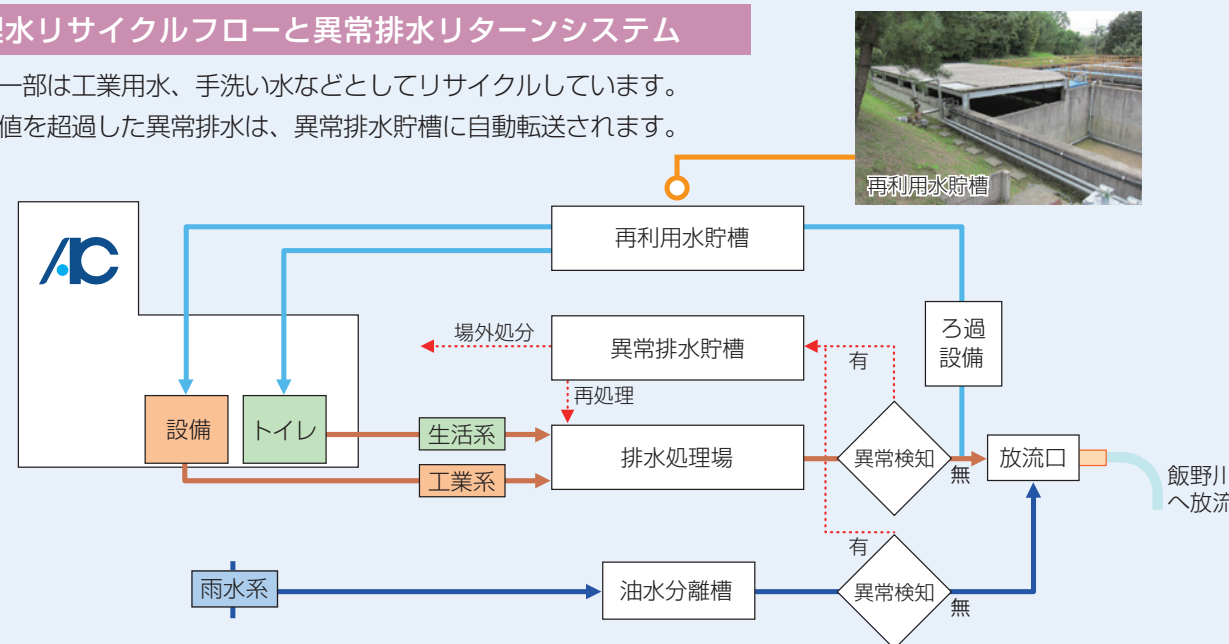


水資源の有効活用

生産工程排水・生活排水は、総合排水処理施設で処理しています。浄化されたリサイクル水は工場に再供給し、水資源の有効活用を図っています。

処理水リサイクルフローと異常排水リターンシステム

- ①処理水の一部は工業用水、手洗い水などとしてリサイクルしています。
- ②監視基準値を超過した異常排水は、異常排水貯槽に自動転送されます。



環境事故・汚染防止のために

環境事故・汚染を未然に防止するために、万一の際にも適切な対応ができるよう教育訓練を実施しています。
また、作業者の安全意識を高める活動を推進し、労働災害を防ぐ取り組みにも力を入れています。

SDS（化学物質データシート）教育

全社緊急事態対応訓練の前段で、SDS（化学物質データシート）教育を実施しました。取り扱う溶剤のSDSを用いて、溶剤の性質や着用すべき保護具、防毒マスクの正しい着用方法等について理解を深めました。



保護具を着用する際の注意事項を説明

全社緊急事態対応訓練

受入時の溶剤漏洩を想定した緊急事態対応訓練を行いました。対応手順に基づいて、守衛所への連絡、土嚢や吸着マットによる拡散防止、異常排水貯槽への切り替え操作の手順を再確認しました。万一の事故に迅速な対応ができるよう定期的に訓練を実施しています。



エアポンプを使用してマンホール内から汲み出し

外来工事安全大会の開催

年3回、長期連休中の工事における事故防止を徹底するため、発注責任者や外来工事業者を集めて安全大会を開催しています。安全大会では緊急時の連絡対応手順の確認、災害事例などを再確認し合い、工事における環境事故の未然防止に努めています。



外来工事安全大会

CO₂消火設備使用訓練

火災発生時にCO₂消火設備を適切に起動させるため、実際に起動する訓練を定期的の実施しています。作業者の力量・判断によって及ぼす影響が大きくなることから、参加者の真剣な姿勢が見られました。



実際にCO₂を噴射して手順を確認

環境コミュニケーション

アイシングループ富士山植樹活動

2015年5月、アイシングループ5社（*1）の協業で富士山植樹活動を行いました。今回で13回目の開催となり、毎年植樹の成長を実感できるのも楽しみめの1つとなっています。また従業員で苗木募金を募り、富士山ナショナルトラストに寄付金を贈呈しました。

（*1）アイシン精機株式会社、アイシン高丘株式会社、アイシン化工株式会社、アイシン・エイ・ダブリュ株式会社、アイシン・エーアイ株式会社



富士山ナショナルトラストに寄付金を贈呈

地域懇談会の開催

8月23日、飯野公民館にて飯野地区の方々と懇談会を開催しました。環境報告書を用いて、環境取り組みや社会貢献活動など当社の近況を報告。意見交換を行い当社の取り組みをご理解頂く良い機会として、毎年開催させて頂いています。

地域住民や一般の方々との環境コミュニケーションの機会を通して、当社の取り組みや環境保全活動の理解を深めています。

豊田市協定協議会での環境活動

当社は2010年12月に豊田市「環境の保全を推進する協定」の締結事業者となり、締結事業者で構成される協定協議会に加入しました。協定協議会ではグループや業種の枠を超えて情報交換を行い、環境情報の共有を図っています。



活動紹介パネルの展示（緑のカーテンプロジェクト）



地域住民の皆さまへ活動報告

環境データ

当社では、法及び豊田市との協定で定められた基準よりも厳しい社内基準値を設定して管理しています。
2014年度環境測定の結果は、下記の通りです。

項 目		法基準値		協定値 (*1)	社内基準値	測定値		評価
						最大	最小	
水 質	pH	5.8～8.6		5.8～8.6	6.0～8.4	7.5	6.4	○
	BOD (mg/L)	25以下		20以下	16以下	14.0	0.9	○
	COD負荷量 (Kg/D)	14.6以下		14.6以下	11.5以下	4.4	0.0	○
	SS (mg/L)	30以下		30以下	16以下	4.4	0.6	○
	油分 (mg/L)	5以下		-	2以下	0.5未満	0.5未満	○
	窒素負荷量 (Kg/D)	12.6以下		12.6以下	10.0以下	9.94	1.07	○
	りん負荷量 (Kg/D)	1.30以下		1.30以下	1.00以下	0.45	0.01	○
	亜鉛 (mg/L)	2以下		1以下	1以下	0.16	0.03	○
大 気	ばいじん (g/Nm³)	0.2以下		-	0.1以下	0.001未満		○
臭 気	敷地境界臭気指数	18以下		18以下	10以下	10未満		○
騒 音	敷地境界 (①正門、②県道) (デシベル)	昼	75以下	75以下	70以下	①48、②53		○
		夜	70以下	70以下	60以下	①42、②52		○
振 動	敷地境界 (①正門、②県道) (デシベル)	昼	75以下	75以下	70以下	①、②ともに30未満		○
		夜	70以下	70以下	65以下	①、②ともに30未満		○

（*1）豊田市「環境の保全を推進する協定」（2010年12月締結）
pH：水素イオン濃度
COD：化学的酸素要求量
BOD：生物化学的酸素要求量
SS：浮遊物質量

地域社会・従業員のために

ACフェスタ2014

10月12日、本社工場において「ACフェスタ2014」を開催しました。従業員の家族や地域住民の方々など520名が来場し、豊田ご当地アイドル「Star☆T」によるライブ、部署対抗大縄跳び大会、大抽選会など、内容盛りだくさんで行われました。また、飲食ブースの売上は「社会福祉協議会」に全額寄付いたしました。



豊田ご当地アイドル「Star☆T」によるライブ

スマクル活動

当社では従業員の地域貢献活動を「スマクル活動」と名付け、さまざまな地域活動に参加してきました。ハンディを持った方が普通に暮らし続けていきたいという思いに賛同して、2010年から「社会福祉法人オンリーワン“お菓子工房ぐれいす”」によるお菓子販売を支援しています。販売されるお菓子は、従業員の間でも美味しいと評判になっています。



ぐれいすのスタッフが当社厚生会館で販売

第3種無災害記録証

12月18日、豊田労働基準監督署において当社の「厚生労働省 第3種無災害記録証」の授与式が開催されました。この記録証は、厚生労働省にて業種別に設定されている無災害記録の基準を満たした事業場に授与されるものです。これを励みに今後も危険・事故の芽を無くし、労働災害の予防に努めていきます。



豊田労働基準監督署長より記録証の授与

交通安全立哨活動

新学期や交通安全週間の時期に、地域の方々と協力して、交通安全立哨活動を実施しています。交通量が多く危険と思われる場所に社員が立ち、子どもたちが安全に横断できるように手助けする活動を行っています。「シートベルト着用」、「運転中の携帯電話使用禁止」などの啓発ステッカーを掲げて、交通事故の撲滅を訴えました。



安全運転を啓発（藤岡飯野町交差点）

アイシン環境学習プログラム

アイシン環境学習プログラムとは…

学校の授業計画と合わせながら約1年間、学校での環境学習のお手伝いをしてきました。

①座学・フィールドワーク ②ワークショップ ③エコアクション ④エコトークセッション(発表会)という一連のプログラムを通して子どもたちに環境の大切さを気付かせ、環境保護やエコライフといった行動へと導きます。

2014年度は昨年に引き続き、飯野小学校の4年生84名と活動を行いました。

①座学・フィールドワーク

土の中の生き物観察

市民ボランティアを講師に招き、土の中にいる生き物観察を行いました。

枯葉や生き物の死骸などを自然にかえす生き物の存在や、生態系ピラミッドについて学びました。



土の中にいる動物を観察

ごみ処理場・浄水場見学会

飯野小学校の社会見学。豊田市のごみ処理方法や水処理のしくみを学習しました。



浄水場に社会見学

②ワークショップ

シンパシーワークショップ

生態系をゲームで表し、動物の気持ちや人間の気持ちを疑似体験します。

人間・動物それぞれの気持ちを共感(シンパシー)することで、より生き物を大切にしようという気持ちが芽生えました。



ゲームを通じて生態系を学習

③エコアクション

エコアクション講座

これまでの学習をふまえ、実際に日常でエコ活動に取り組んでもらうための導入講座を新設しました。

講座ではアイシン化工・行政(豊田市)・地域(地元企業)のエコ活動を生徒たちに紹介しました。



アイシン化工のエコ活動を紹介

エコアクション

次は一人ひとりがエコ活動を実践します。

生徒たちは「マイバッグを使う」「給食を残さず食べる」など、多くのエコ活動を実践しました。



給食を残さず食べることもエコ活動

④エコトークセッション

ACフェスタ

ACフェスタで生徒たちがこれまでの学習を発表しました。

藤岡地区の環境調査を行い、「藤岡にすむ生き物や植物を大切にしたい」思いを伝えました。



大勢の前で少し緊張しました

エコトークセッション

1年を通して環境の大切さを学んだ生徒たちが、保護者や地域の方々の前で発表しました。

最後には自分たちの言葉でエコ宣言を行い、当社から生徒に修了証書を手渡しました。



みんなの前でエコ宣言！